

和歌山フラフラウォッチング 27

紀州鉄道線

～西日本一のローカルミニ私鉄～

(御坊市)



田園地帯を走る紀州鉄道線

紀州鉄道線は元々“御坊臨港鉄道線”が母体。昭和初期、国鉄紀勢本線の御坊駅が町はずれに設置されたことから、まちの有志が出資して昭和3年、港から市街地を経由して御坊駅を結ぶ鉄道会社を設立したことに始まる。

現在は日高川駅から西御坊駅間（0.7 km）は廃止され、御坊駅－西御坊駅間の2.7 kmが営業区間という、西日本一営業キロの短いローカル私鉄となっている。

御坊駅を出て最初の駅が「学門駅」。戦前「中学前駅」だったが廃止されたものの昭和54年跡地付近に「学門駅」が開業。受験シーズンになると、ここの入場券に人気が集まるという。隣の「紀伊御坊駅」では記念入場券等の鉄道グッズを購入できる。のどかなローカル鉄道、旅愁を味わってみませんか？（取材 萬羽）



終点の西御坊駅



運転席



佐藤春夫記念館

～移築復元された美しい洋館～

(新宮市新宮)

あはれ秋風よ情あらば伝えてよ（中略）さんま、さんまさんま苦いか塩っぱいか。～ これは故郷新宮をこよなく愛した詩人で作家の佐藤春夫の「秋刀魚の歌」の一節である。佐藤春夫の人物伝については他書に譲るとして、この記念館、東京文京区にあった佐藤春夫の旧宅をそっくり移築復元したもの。中に入ると先ず気づくのが非常に明るい事。窓が大きく外の明りがふんだんに室内に取り込まれている。決して広くはない二階廊下の角にも窓があり、ここで執筆活動をしていらしたらしい。一階に暖炉のある居間がある。昭和39年5月、ここで佐藤春夫はテープレコーダーに録音作業中に急死した。生前の肉声が残されていて興味深いこの記念館、熊野速玉大社境内に建てられている。新宮を訪れた際には寄りたい所。（取材 萬羽）



明るい二階廊下



中庭

